

令和3年度 文京区立明化小学校 授業改善推進プラン

第5学年2組

	児童の実態	指導のめあて	具体的な授業改善の方法	2学期評価	3学期評価
国語	<p>○課題や問いに対して素直に取り組む児童が多い。しかし、自分がなぜそのように考えたのか、文章にまとめる力が不十分に感じられる。</p> <p>○漢字テストは多くの児童が高い正答率で書くことができる。しかし普段のノートやワークシートで既習の漢字を用いていない場合が多い。また、はねやはらいなど漢字の細かな部分の定着が浅いことがある。</p>	<p>○文中から根拠となる部分を見つけ、自分はなぜそのように考えたのか、明確に説明できるようにする。</p> <p>○既習の漢字や新出漢字がより正確に定着し、日常の様々な場面で用いることができるようにする。</p>	<p>○文中から登場人物の心情が書かれている場所に印を付ける、指示語に着目させるなど根拠となる部分を明確にさせる。</p> <p>○新出漢字を指導する際には、関連する漢字や熟語、漢字の部首一つ一つに着目して指導するなど、児童が漢字の不思議さ、面白さを感じるようにする。</p> <p>○正確な漢字を継続して書いている児童を紹介し認めるとともに、単元ごとに小テストを行い反復学習を続けていく。</p>		
社会	<p>○単元に関わらず関心を持ち、新しいことを知りたいと学習に取り組む児童が多い。</p> <p>○学習内容について意欲的に調べられるが、自分の生活との関連は薄い。既習の児童が、知識を発表する場面が多くなってしまふことがある。</p>	<p>○基礎的な資料を効果的に読み取り、様々な課題について気付き、考え、探求することができるようにする。</p> <p>○産業の特色について、自分の知識や生活場面と関連させながら理解できるようにする。</p>	<p>○タブレットを活用し、児童自身が課題を設定し、調べ、まとめ、発表するなど協働的に学習を行う時間を設ける。</p> <p>○教科書の資料だけでなく、タブレットも用いることで児童が自ら気付き、解決へとつながっていく学習を推進する。</p>		
算	<p>○四則演算は意欲的に取り組む児童が多く、発展的な問題にも</p>	<p>○小さなミス無くそうと確実に見直しをしながら、計算や量</p>	<p>○テストが時間より早く終わった児童も、時間までは確実に見</p>		

数	<p>積極的に挑戦する。しかし見直ししておけば気付けるようなケアレスミスをしてしまう児童が多い。</p> <p>○算数科全体に対して、個人差が激しい。</p>	<p>の測定などに正確に取り組むことができるようにする。</p> <p>○既習事項は確実に取り組むことができるようにする。</p>	<p>直しに取り組むよう徹底させ、見直しの習慣をつけるようにする。</p> <p>○問題に出てくる数字を取り出し、数字と数字の関係について、数直線や図、絵に表現して理解を深める。</p>		
理科	<p>○課題とされた自然事象について意欲的に調べようとするが、自然事象から自ら課題を見出すことを苦手とする児童が多い。</p>	<p>○自然事象を調べる際に児童が的確に課題を捉え、比較・検討ができるようにする。</p>	<p>○条件制御を伴う実験を丁寧におさえ、児童の観察や実験結果を提示する。またタブレットを用いて共通点や相違点を話し合う時間を確保する。</p>		
体育	<p>○用具やゲームの準備は進んでできる児童が多い。だが、自己の技能について振り返り、工夫しながら上達を目指そうとする意欲がやや低い児童がいる。</p> <p>○ゲームについては意欲的に取り組み、主体的に話し合いながら作戦を考える児童が多い。</p>	<p>○課題について自ら考え、自己の能力の向上のために工夫ができるようにする。</p> <p>○主体的に考えられる児童とともに、苦手な児童も考えを伝えられるようにする。</p>	<p>○全体での振り返りを行うことで、学習したことの記録や自己の成長を振り返れるようにする。また、授業の初めにポイントを振り返ったり、課題の確認を行ったりできるようにする。</p> <p>○振り返りの際に評価する場面を設け、日ごろから違いや差を受け入れるような指導を行い考えを伝えやすい環境を作る。</p>		